

【質問事項】

「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人ひとりが個人としてできること、やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間とつながりながら、希望をもって自分らしく暮らし続けることができる」という新しい認知症観を、地域に浸透させるために必要なことや、皆様が日頃の生活の中でこの新しい認知症観が浸透している、浸透していないと感じることなどをお聞かせください。

議題（２）新しい認知症観を浸透させるためには

【事前意見】

● 現状（当事者の状況）

- 現状では、「うまくできない」と不安を感じ、そこであきらめてしまう人がいる
- また、家族の中には、「何度も同じことを言う」「何度注意しても聞かない」などと言う人が多い。「なぜそうなのか？」「どう向き合うのか？」という考えには、至っていない

● 現状（専門職の状況）

- 施設や、専門職（医師含む）の中には、古い認知症観が未だに根強い
- 認知症のある人が、人として当たり前の反応をしても、全て認知症のせいとされ、本人の意思は、尊重されないまま、処理されてしまう

議題（２）新しい認知症観を浸透させるためには

1. 地域全体への理解促進と教育の強化

- 住民・企業・商店・学校への継続的な啓発
- 特に、小中学生への教育（認知症サポーター養成講座の学校への導入など）が重要。子供の頃からの教育の積み重ねで、認知症の理解や接し方を繰り返し学ぶことで、「認知症は誰もが関わるもの」という意識を醸成し、自然に支え合える社会の担い手を育成

2. 普及啓発の推進

- まずは認知症についての啓発が最重要であり、新しい認知症観は其中で必ず発信する。また、次のように優先順位をつけて浸透を図る。
 - ① 認知症（MCI含む）の診断を受けて間もない本人と家族
 - ② 認知症予備軍（認知症が気になるまたは疑いのある）の本人と家族
 - ③ 小中学生（学校教育）／高齢者および認知症に関心の高い人（地域住民）

3. 当事者と支援者の対等な関係性

- 支援者は、専門性だけでなく「対等な関係」を意識する。「してあげる人」「管理する人」になってしまうと、古い認知症観を強めてしまう。支援者の言葉は、家族や地域に大きな影響を与えるので、「できないこと」ではなく「できていること」「工夫すれば可能なこと」を言語化し、周囲に伝えることで本人の見え方も変わっていく。支援者は、本人・家族と社会をつなぐ存在なので、研修や啓発活動、日常的な関わりを通して、認知症は特別なものではなく、誰でも関わる可能性があることを伝え続けることが、新しい認知症観の浸透につながる

議題（２）新しい認知症観を浸透させるためには

4. 多様な当事者像を踏まえた現実的な発信

- 若年性・初期・進行期など、それぞれの状態や背景の違いを踏まえた理解
- 偏ったイメージではなく、現実に応じた認知症観の提示
- 当事者や家族等が交流し、先入観の無い人間関係を築くことで視野が広がり、認知症観は変わっていく。「できることもある」という理解と現実のバランスを伝えていく

5. 認知症は誰もがなる可能性がある

- イベントなどで認知症を予防することを目的とした講座などが開かれており、「認知症にならないようにする」という意味合いで「認知症予防」という言葉が使われている。認知症を正しく理解し、認知症は誰もがなる可能性があることを周知する必要がある

6. 当事者発信の確保

- 当事者が、声を上げ続けられる環境作り。当事者が自らの体験や思いを語り、好きなことや得意なことを見せることは、新しい認知症観を伝える強い力となる。その為には、安心して話せる場、話した内容が「否定されない」「軽視されない」環境が必要。そして、当事者は、支援される存在であると同時に、経験を伝える人であり地域の一員である。社会の中で役割を持ち続けることが大切。社会の偏見が強いほど当事者自身が「迷惑な存在」「役に立たない存在」と感じてしまうことがある。当事者が自分を肯定できるよう、仲間とのつながり、当事者同士のピアサポートが重要

議題（２）新しい認知症観を浸透させるためには

7. 社会への浸透に向けた発信と課題認識

- SNS・講座・メディア等を活用した発信の強化
- ゆっくりレジ・見守り配信などの支え合い・学校での認知症教育など、一部では実践が進んでいる一方、「認知症になったら何もできない」という古い認知症観が依然として根強い、中高年層を中心に「認知症になりたくない」という忌避意識が根強い、地域の間関係の希薄化により共生の土台が弱い、家族介護の現実の厳しさから新しい認知症観を受け入れにくいといった状況である。実践の広がり意識のギャップを埋める取組が必要

8. 多様な当事者への支援

- 地域の交流を望まず、孤立しているような方でも生活できる支援も必要。当事者もそれぞれなので、そのすべての方に適切なサポートとなるとサポート側にも一定の知識はやはり必要。環境に慣れるまではサポート側の失敗もある程度は許される期間も必要

9. 家族介護者への包括的支援・心理的・時間的・経済的負担の軽減

- 現実に寄り添う支援（制度・給付・相談体制）の充実
- 家族の尊厳や人権への配慮（警察・消防等公的機関やコンビニ等生活インフラの従事者を含む）
- 介護の現実に寄り添い、新しい認知症観を受け止められる土台づくり

議題（２）新しい認知症観を浸透させるためには

10.地域共生の基盤整備（居場所・支え合い・見守り）

- 地域コミュニティの再生と居場所づくり。身近な範囲にカフェや交流拠点を整備し、人とつながる機会を増やす
- 具体的な生活支援・合理的配慮の普及。例えばゆっくりレジなど、安心して社会参加できる仕組みを広げる
- 見守り体制の強化。行方不明時の情報共有など、地域全体で支える仕組みを全国的に整備し、実生活の中で「共に暮らす」環境をつくる